

チャールズ・ブラウンさんの霞ヶ浦訪問

2015年12月10日

笹本妙子

この訪問には POW 研究会のメンバーが同行できなかったため、同行した参議院議員の藤田幸久氏のブログや新聞記事、POW 研究会の調査記録などを参考にまとめてみました。

12月10日(木)、チャールズ・ブラウンさんは娘さんとウィリアム・コネルさん（小笠原諸島父島で乗機が墜落）親子と共に茨城県の霞ヶ浦を訪ねた。藤田議員と外務省の職員が同行した。

米海軍少尉だったブラウンさんは1945年2月16日、房総沖の空母ランドルフから急降下爆撃機 SB2C で飛び立ち、編隊を組んで日本本土への攻撃に参加した。20歳の若者にとって入隊後初の戦闘だった。攻撃目標は土浦市右舷にあった第一海軍航空廠。日本軍は対空砲で応戦し、その1発がブラウンさんの機体に命中し、土浦市石田の霞ヶ浦西端の湖面に不時着した。ブラウンさんは同僚のジョン・D・リチャード三等飛行兵曹と共にゴムボートで脱出したが、地元住民の舟に救助され、憲兵隊に引渡された。その後、大船収容所を経て大森収容所に送られ、半年間の捕虜生活を送った。戦後は弁護士として活躍した。

この日、ブラウンさん一行を迎え、墜落現場付近に案内したのは、阿見町にある予科練平和記念館の坪井館長や歴史調査員の赤堀好夫さん(79)ら。少年時代にこの事件を目撃した赤堀さんは湖面で空に杖をかざして撃墜から不時着までの軌道を示し、「チャールズ、あの辺りが不時着した所だろう」と当時の状況を説明した。ブラウンさんは「高度6千フィートで撃たれ、水上に不時着した。エンジンは火を噴いていたが水のお蔭で消えた。けがはなかった」と回想した。



赤堀さん（左端）や藤田議員（その隣）らと墜落現場を確認するブラウンさん（中央）（藤田議員ブログより）

その後、予科練平和記念館で行われた聞き取り調査で、彼は「私の人生はここで変わった。当時のことを知っている方々に迎えていただいてありがたい。日本も米国も多くのことを学んだ。お互いの文化や社会を尊重し、和解することが重要だ。戦争を再び起こしてはならない」と訴えた。

